

SPテンプレート

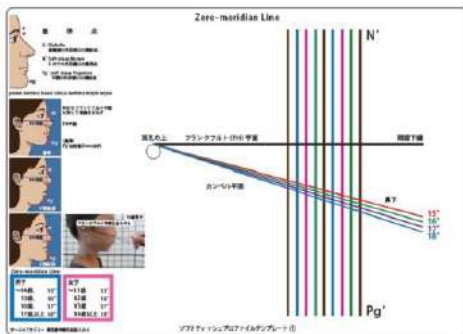
使用目的

矯正治療を行う上で、下顎前突や開咬、下顎後退のような骨格性の問題が生じている可能性のある症例には、セファログラム(頭部X線規格写真)による骨格の評価は重要です。しかし、セファログラム分析の煩雑さ、また、X線室の改築等コスト面でも分析導入は敷居の高いものです。SPテンプレートは、セファログラム分析が普及していなかった時代に軟組織プロファイル分析とよばれ診断に使用されてきた方法で、それに基づいて開発された骨格を簡便に分析できるツールです。

使用方法

3枚のSPテンプレートを用いて簡便な軟組織プロファイル分析ができます

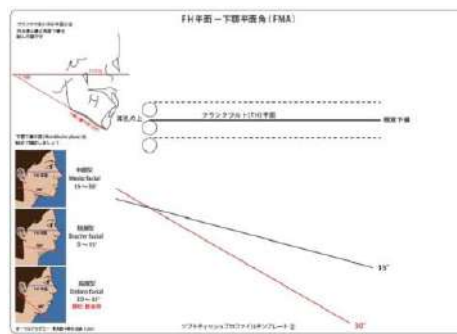
患者さんの横顔にテンプレートをかざし、印刷されているイラストを参考に考察します。



SPテンプレートNo.1 Zeromeridian line

頭蓋に対しての下顎の前突及び後退量の診断に使用

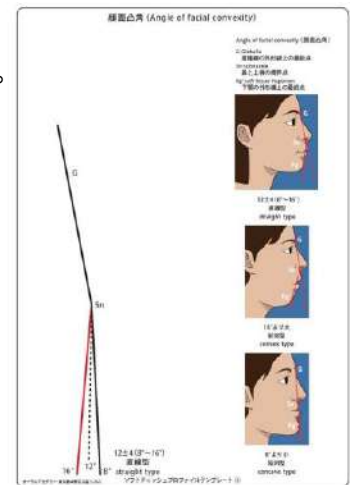
●N'から平面FHに垂直に下ろした線は、Pg'の位置で、顔面に対するオトガイの位置を評価する。



SPテンプレートNo.2 Mandibular plane angle

前後顔面高のバランス(開咬傾向)と下顎の回転方向の診断に使用

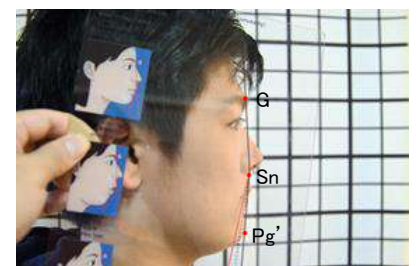
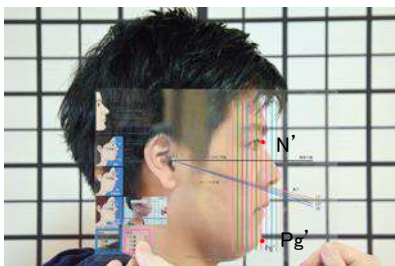
●FH平面と下顎下縁平面がなす角度を評価します。



SPテンプレートNo.3 Angle of convexity

前額部とオトガイ部を結んだ線と中顔面部の前後的位置から側貌の突出度の診断に使用

●GとSnとPg'を結んだ線がなす角度を評価します。



軟組織プロファイル(soft tissue profile)の基準点

軟組織プロファイルの基準点は多々ありますが、簡便にするために、

G(Giabeia):眉隆線の外形線上の最前点

N'(Soft tissue Nasion):Gの下外形線上の最深点

Sn(Subnasale):鼻と上唇の境界点

Pg'(Soft tissue Pogonion):B'の下顎の外形線上の最前点

以上4つの点に絞っています。

